断定回避のディスコースマーカー

富　阪　容　子

1．はじめに

ある程度の長さのまとまった内容を表現する場合，たとえば「僕は今アメリカの大学では三年生ですが，日本に留学して夏期の授業をとっています。それが八月の中旬あたりに終わるので，十月上旬からは東京で一年間勉強します」という発話は，実際にはこのような形では展開されない。さまざまな箇所で言いよどんだり言い直したりするのが普通で，次のようになる。「僕は今ーあのー現在，三年生で，あのー日本にー，一年間留学って感じで，ええー今夏期の授業を，まあ，とってます。で，それが八月の中旬あたりに終わるので，ええと十月の上旬からは，あのー東京の方で，一年間勉強します。[1]」この中には「あの」「ええと」「まあ」などのつなぎ言葉が頻繁に使用されている。これらのつなぎ言葉なしには会話が自然に進行していかないだろう。更に，聞き手によるあいづちも会話を促進するのに必要であろう。このような余分な要素があって初めて会話が成立する。本稿ではこのように会話の中に挿入されるつなぎ言葉のうちの「まあ」[2] に焦点をあてて観察することにする。「まあ」は「あの」や「ええと」とは違って副詞としての用法を持つので，初めに新聞記事を対象に検討してみて，次に話し言葉の資料として落語とOPI面接資料[3] を対象に分析する。落語は既に推敲を重ねた語りであるのに対して，OPI面接資料の方は即興の対話である。両者共，話し言葉でありながら，その文字化データが得られたので，それを音声資料と共に参考にする[4]。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">コミュニケーションの型</td><td>母語話者のデータ</td><td>非母語話者のデータ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">話し言葉</td><td>一対一</td><td>unprepared</td><td colspan="2">OPI面接資料</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対多数</td><td rowspan="2">prepared</td><td>落語</td><td rowspan="2">5)</td></tr>
<tr><td>書き言葉</td><td>新聞記事</td></tr>
</table>

それぞれの異なる特色を観察し，その中に見られる「まあ」の用法やその場面情報について明らかにしたい。更に，断定を回避するディスコースマーカーとしての働きについて分析したい。さまざまな学習段階にある非母語話者の発話が見られるOPI面接資料はこれらの談話標識の発達段階の解明に役立つだろう。筆者自身が行なった非母語話者に対するインタビュー資料も合わせて検討し，その発達過程を観察したい。それによって第二言語話者がどのようにして長い発話を可能にしていくかというプロセスを究明するための第一歩としたい。

2．先行研究とその用語

「あの」「ええと」「まあ」などの挿入語をどう呼ぶかに関しては統一した見解がない。山下（1990）では無意味語と呼ばれている。社会言語学的観点からの洞察が見られる奈倉（1997）では言いよどみ表現（hesitations）と名付けられている。この研究では話者の属性（性別，年齢，職業，地位など）或いは聞き手との親疎関係などによって使用の分布が異なることが明らかにされている。くだけた会話においては「まあ」は主に男性によって使用されているが，大学の講義や会議の討論においては男女を問わず主要な標識として頻繁に使用されるとしている。野村（1996）では「本来の語彙的な意味から離れて用いられ，それを削除しても発話全体の命題的な意味が変わらないような語句」をフィラーと呼び，大学の講義の中で用いられるフィラーについて文科系と理科系との違いを明らかにしている[6]。西阪（1999）は「あの」が作り出すコンテクストを明らかにし，「適切な話し手・聞き手関係を整序する工夫」と見なしている。エメット（1996）は「なんか」に関する分析の中で，インターアクショナルマーカーを次のように定義づけている。

> 聞き手が存在しなくても使用される感動詞や間投詞と異なり，原則として聞き手とのコミュニケーションを円滑にするために使用されるものである。「あの（う），ええとうーん（と），なんか」等がその例で，これらの語を使用することにより，話者の意図や願望などを聞き手に伝達することができる。

野村（1996）では「あの」のような聞き手への働きかけがあるものと「ええと」のような聞き手への働きかけがないものとを区別して，それぞれの出現回数を調査している。しかし，すべてを二つに分類できるかどうかに関しては疑問があり，特に「まあ」に関してみる限り境界が曖昧である。「まあ」は副詞的用法もあり，受け手による直接のフィードバックが得られにくい新聞記事[7]や落語などにも用いられているので，本稿ではインターアクショナルマーカーではなく，ディスコースマーカーと呼ぶにとどめることにしたい。そのうちで，適当な言葉や表現を見い出すために使用されるものに限り，特にフィラーと呼ぶことにしておく。

3．新聞記事の場合

「まあ」に関して広辞苑では次のように副詞，感動詞として品詞分類がなされている。

副詞　① 十分ではないが，かなりの程度であることを表す。

　　例：「まあよい方だろう」

　　② 軽く相手を制止したりうながしたりまた自分の気持ちを述べたりするのに用いる。

　　例：「まあ待ちなさい」

感動詞 ③ 驚いたり感嘆したりした時に発する声

例：「まあ，不思議だこと」「まあきれい」

他の辞書をひいてみても，その解説は個別の使用例に関するものに限られており，「まあ」の用法を統一的に説明するものが見受けられない。そこで，新聞記事に用いられている使用例を観察してみることにする。新聞記事の中では，ある人物の台詞として引用されている場合と地の文の中で使われている場合がある。首相の語り口を写実的に描写している（1）では，消極的政治姿勢を示す効果を持っている。

（1）　記者「今日は党首討論にどう取り組みますか」
　　首相「まあ，やるだけでしょう」

（2）　そんなことはまあない。

（3）　まあそうですね。

（2）（3）は広辞苑の副詞としての用法と同様であるが，これらは「まあ」を削除すると，文の意味内容に変化を生じる。「そんなことはない」と断定したり，「そうですね」と完全に同意するのではなく，断定や主張の程度を下げる効果を持つ。ある種の語との共起関係が見られ，次のような副詞や形容詞と共にしばしば用いられる。「まあ一応」「まあとりあえず」「まあしかたがない」「まあいいか」「まあそのうち何とか」「まあどっちでもかまわない」のような妥協案，折衷案の提示と見なされるものがある。「まあ二三年」「～とまあこんな調子」「まあ恐らく」「まあ要するに」「まあ言ってみれば」のような概数，近似値を求めようとするようなものもある。「まあいわゆるIT社会は～」のように一般論を述べる際にも用いられやすい。文末は断定ではなく推量の形式をとることが多い。2000年度の朝日新聞を調査した結果[8]広辞苑で取り上げられている用法は約40～50％に過ぎないということが判明した。「まあ」の出現環境は極めて広範囲にわたるので，すべてを網羅することは不可能であるが，広辞苑に書かれていないもののうち主なものを次にまとめておこう。

④ まあ，五～六年はかかるでしょうね。　（概数，近似値）

⑤ まあ，難しいことはおいといて，とりあえず～　（暫定的措置，妥協）

⑥ まあ，いいトレーニングですね。　（言ってみれば）

⑦ まあ，現代社会においてはよく見られる現象だ。（一般論）

4．落語の場合

落語は事前に周到に準備された語りであるが，その中にも「まあ」の使用例が比較的多く見い出される。前節で観察したような①～⑦の用法が見られる。

① 「お前は素人や，お前は」「まあそうですけどね」

② まあ，こっち上がりいな。

③ まあァあの人は，どこまであたしをだますんだろう。

④ いわゆるまあ個室みたいなとこへ入りまして，まあ，歌い放題やそうで

⑤ まあいいやァ，直しが冷やしてあるから，冷奴で一杯呑れェー

⑥ まあァ一年に何度というような天気だ。

⑦ えー，まあ世の中どんどん変わりますね。

上記の①～⑦は新聞記事の中に見い出されるものと共通しているが，それに対して，新聞記事の中には見い出されず，落語に見られるものは次のような用法である。

（4） 七月にまあ，オーストラリアというようなとこへ寄してもらったんでございますが，まあ，オーストラリアちゃなとこは，私ら，そらまあオーストラリアに限らず，海外ちゃなことはまあ，この度初めてでございます。(桂枝雀)

落語においては，間をとることが重要であるのと同様，間をどんな音声で埋めるかも重要である。野村雅昭『落語の話術』では落語の「間」について次のように述べている。

> 五代目古今亭志ん生は，あとで分析するように，間の効果を十分に意識した話者であったが，ときに絶句したようなポーズをおくことがあった。そのあとに，意表をつく内容の語句が発せられ，それがワライをよぶ要素ともなったが，弟子たちによれば，あれは計算したものではなく，本当にいうことがでてこなかったのを，「ウーン」というような間投詞でつないでいたのがほとんどだということである。

ここで「間」について指摘されていることは，フィラーとしての「まあ」にも該当する。①～⑦と（4）が別の性格を持つものだと明確に区別することは困難である。しかし，（4）のようなフィラーは使用頻度やその箇所には個人差が見られるという点において，①～⑦とは異なっている。これらのフィラーの使用はリズムを整えたり息を整える役割を果たすと共に，聴衆に訴えかける働きを持つと思われる。落語のような話芸にはパラ言語学的な要素が重要な役割を果たし，その独自の語り口に魅力を添える。

5.「まあ」の文中での位置

次に「まあ」が文中のどの位置に用いられるかについて考察する。落語のマクラで実際に用いられているのは（5）aであるが，「まあ」の配置は次のように数種類考えられる。

（5）a. この頃，まあ歌舞伎も，ずいぶん若い人が見にいくようになりまして

b. まあ，この頃，歌舞伎も，ずいぶん若い人が見にいくようになりまして

c. この頃，歌舞伎も，まあずいぶん若い人が見にいくようになりまして

d. この頃，歌舞伎も，ずいぶんまあ若い人が見にいくようになりまして

e. この頃，歌舞伎も，ずいぶん若い人がまあ見にいくようになりまして

f. この頃，歌舞伎も，ずいぶん若い人が見にいくようになりまして，まあ

（5）f はともかく，その他の例は「まあ」の挿入箇所を変えても表現意図は変わらない。つまり「この頃，若い人が歌舞伎を見にいく」という命題に「まあ」を付加する時，その位置には自由度があるということになる。更に付け加えると，ここで用いられている「こ

の頃」「歌舞伎」「若い人」というような語彙は一般論を述べる際に「まあ」が前置されやすい。次の場合も三種類の表現が可能である。

（6）a. まあ，わが家の息子も今年の秋で20歳になりまして

b. わが家の息子もまあ今年の秋で20歳になりまして

c. わが家の息子も今年の秋でまあ20歳になりまして

（5）や（6）のような感慨の気持ちを含む文は「まあ」が使用されるが，事実描写には使われない。

（7）a. わが家の息子は20歳です。

＊b. まあわが家の息子は20歳です。（＊は非文を示す）

＊c. わが家の息子はまあ20歳です。

「20歳の青年が会場に集まりました」には「まあ」は付加されないが，「24～25歳と思われる人々が集まりました」には「まあ」が付加されやすい。既成事実や明確に断定される事実描写に「まあ」は使われないが，不確定要素を伴った事柄には「感慨，ためらい，不安」などの感情を伴って，「まあ」を使用して控えめに表現する。「ためらい」とはその言葉が適切かどうかの迷い，自分が用いる待遇表現が適当かどうかの迷いなども含まれる。

6．非母語話者の言語運用能力の発達

OPIの基準によると，中級は「文」が言える段階であるが，上級は「段落」が言える段階であり，更に超級は「複段落」が表現できる段階であるとされている[9]。段落とは何かという定義は難しいが，牧野（2001）では次のように解説されている。

> 段落はスライドのようにブツブツ切れるのではなくて，ビデオの映像のように流れるように続いていくものです。今までの談話文法の研究でわかっていることは，段落は接続詞，省略，反復，照応関係の明示などにより統括され，全体の意味も首尾一貫している複数の文だということです。

段落ができるかできないかが中級と上級の決定的な違いの一つだとされている。段落の使用の有無と，間のとり方の巧妙さに関して直接の関連性はないが，同じような時期に発達するものだと考えることは妥当性がある。「流れるように続いていく」ためにはフィラーの使用が欠かせない。書き言葉やスピーチ，落語のように事前に準備したものではなく，相手の問いかけに応答するためには筋を考えたり言葉を選んだりする時間が必要となる。その時間かせぎのためのストラテジーとしてフィラーが使われる。OPI面接の中で用いられる「まあ」のすべてがフィラーというわけではないが，少なくとも次のように他のフィラーと重複して用いられているものは，フィラーであると見なしてもいいだろう[10]。

（8）まあ，あの，日本人も多いし，ええと，まあ，とても素晴らしい先生も，うん，たくさんいらっしゃるし，うん，いいところです。

（9） えー，その，社会と，その，えー，人々の間の，まあ，なんていうんですか，一種の取引きをする現象が，えー，少なくともアメリカとは違うと思います。

（10） ある程度，そういったものをこう，ま，なんというんですかね，自分の哲学というものを持ちながら（略）

（8）～（10）では「あの」「まあ」「その」「えー」「なんといいますかね」というような標識を用いることにより，発話内容がより正確なものへと調節し修正されている。（10）では「自分の哲学を持ちながら」と整理した形で表現するのではなく，頭の中で表現すべきことを整理しながら，慎重に言葉を選択している。会話の修復によって話の流れが遮られる可能性を避けるためであろうか。この慎重な態度は聞き手へのアピールともなるためにフォーマルな場面で使われやすい。家族間の会話や友達同士のようなインフォーマルな場面ならそれほど慎重に言葉を選択しなくてもよいだろう。発言した後での取り消しや修正が比較的容易に行われるからである。このように，落語及びOPI面接で見られる「まあ」は単なるフィラーとして機能するばかりでなく，聞き手配慮の表現としても機能している。

7．断定回避ディスコースマーカー

「まあ」に関する三種の資料の分析結果を次に簡潔にまとめておこう。広辞苑に見られるのはAのみであるが，新聞記事にはB，落語にはC，OPI面接にはDが加わる。Bとは広辞苑にとりあげられていない副詞的用法であり，Cとは間をうめるフィラーとしての用法，Dとは断定回避ディスコースマーカーとしての用法である。

広辞苑	A
新聞記事	A + B
落語	A + B + C
OPI	A + B + C + D

OPI面接は「対話モード」⇨「ロールプレイモード」⇨「対話モード」というステップで進行することになっている。被験者の長いまとまりのある発話を収集することを目的としているので，インタビュアーはできるだけ話しやすい環境を整えようとする。母語話者とほぼ同等と認定される「超級」の話者は長い言語表現が可能であり，その結果として，その発話中には「まあ」を初めとするつなぎの言葉が数多く見られる。次の（11）～（15）はOPI面接の中のロールプレイで見られるものだが，被験者が母語話者のものと非母語話者（超級）のものとが含まれる。

（11） 深夜の騒音に関して隣人に苦情を述べる時

「夜遅くですと，あのピアノを弾かれたりするのは，あのーちょっとーあのーできるだけまあ小さく…（略）いやー，あのー，まあー，あのーね，大変なのはもうわかりますけれども。でも一応まあ夜になると……」

苦情を述べる際にはしばしば「ちょっと…」が用いられるが，これは事態の程度の大小を調節する働きがあるのに対して，「まあ…」の場合は，話者の主張度を調節する働きがある。

(12)　コンサートへの誘いを断る時

「あー，まあ，是非行かせては頂きたいんですけれども，ちょっと土，日はもう先約が入っておりますので，まあ，残念ながら辞退させて頂かなきゃいけないんですけれども」

(13)　労働条件に関する交渉をする時

「今，どういうアルバイトをしても，時給が800円から900円はつくので，まあ，そのへんを参考にしていただきたいんですけれども」

「まあ，できたら9時か，遅くても9時半ごろに帰していただけるとありがたいんですけども」

(14)　教授に推薦状を依頼するにあたって近況を報告する時

「ええっと，まあいろんな生物のコースを取りましたし，科学のコースを取りましたし，あのーま，一応医学部に行きますが…」

(15)　後輩に勉強の仕方をアドバイスする時

「ま，その本を，まあ，読めたら，ま，多分大丈夫ーですよ」

「まあ」を用いた発話は聞き手に対して押しつけがましい印象を与えない。それを唯一のものとして主張するのではなく，そのような主張も可能性の一つとして存在するものと見なして提示するからである。隣家に苦情を述べる時にも，労働条件の交渉をする時にも，遠慮がちな態度をとりつつも，交渉を成功に導くために「まあ」が有効に使われている。教授に自分の近況を説明する時には自分を売り込む必要があるが，同時に傲慢な態度を見せないようにすることが求められる。逆に，後輩にアドバイスする時にはそんなに困難なことではないと勇気づけるために使用される。このように聞き手とのインターアクションには欠かせない要素であると言える。

次に，OPIでの超級に達していない話者の発話を観察してみる。彼らの中には口ぐせのように「まあ」を過剰使用する者がいる。「あのーまあーえーっと」というように他のフィラーと重複して用いることが多い。彼らはフィラーとして間をつなぐことには比較的成功しているものの，次の例にも見られるように対人的な機能を発揮させることに関しては，まだまだ課題を残している。

(16)　盗難事故が発生したことを伝える時

A：かぎはかけてあったんですか。

＊B：あ，はい，そうですけど，あのーまあ，強制的に入りました。

A：ああ，どこから入ったと思いますか。

＊B：まあ窓から入ったそうです。（＊は非文を示す）

(17) アルバイト探しのために訪問する時

＊「こんにちは。まあ，私，あの，この夏休みからあのー仕事探したいんですけど」

盗難事故について報告する際には正確さが要求されるので，できるだけ簡潔で要領を得たものでなければならない。別の可能性を暗示させるものであってはいけない。また，アルバイト探しという訪問の目的を告げる時に，「あの」を用いて用件を伝えるのは適切であるが，「まあ」という標識は適切な聞き手との関係を維持する目的に合致しない。同様に，留守番電話に用件を吹き込む場合にも「あの」「ええと」という標識は用いられるが，「まあ」は用いられにくい。以上で述べたように，場面情報に関する知識を持っていなければ，断定回避ディスコースマーカーとしての働きを生かすことができない。このような語用論的能力の完成度という点においてまだ欠けている話者は，超級と認定されないことになる。

次に，OPIの「対話」部分についての資料を分析しておこう。OPIでは被験者自身の状況（生い立ち，趣味，仕事，将来，夢など）を語るように求められることが多い。その際は，次のように即答や断定を避けて，控えめに語るケースがしばしば見られる。

(18) Q：あなたは学生時代はよく勉強しましたか。

A：ええ，まあ，よく勉強したと言えるかもしれません。

上記のように聞き手に対する待遇上の要請から断定を回避する場合もあり，次のように事実描写にあたっての表現上の困難さから，断定回避マーカーを使用する場合もある。

(19) それはどうしてなのか，まあいろいろ説があるんでしょうけれど（略）

(20) あの，まあどういう風にとらえるかっていうのは，その問題問題でさまざま（略）

森山（1989）では文頭などの談話展開の標識の位置に用いられる「まあ」は一種の判断停止表示となると見なしている。しかしながら，次のように自分自身の状況を説明する際に判断停止というマーカーを用いる必要があるのだろうか。

(21) まあ友達とあったりとか，まあ本を読んだり，まあ映画をみたりとか，まあ色々なことをやっていて（略）

(21) まあレジを打つなり，あと洋服をかたずけるなりするだけなんで（略）

「まあ」はこのように「～たり～たり」「～とか～とか」「～なり～なり」のような並列表現と共に用いられることが多い。その描写内容や表現方法が唯一のものとして述べるのではなく，他の描写方法が存在することを含意する。感情や判断を断定的に表現するのではなく，もっと抑制した形で控えめに，ためらいがちに表現する。これらすべてに共通して見られる働きは「判断停止表示」というよりは「断定回避表示」と呼ぶ方が適当だと思われる。対象物にレンズを向けて，その物体が鮮明にとらえられるまで絞りを調節する働きをしている。焦点が合わずに対象物がはっきり見えない時に「まあ」を使用しつつ調節していく。一つ一つを確認してためらいがちに描写しながら発話を継続する役割を果している。

8．日本語教育での取り扱い

次に日本語教科書での取り扱いについて調べてみる。初級日本語教科書の定番とされている『新日本語の基礎』や『みんなの日本語』等は文型積み上げ式であるためにほとんど取り上げられていない。それに対して，能登（1992）『コミュニケーションのための日本語入門』は断定回避ディスコースマーカーとしての働きに注意を喚起している点が注目される。

(23)　① A：漢字が読めますか。

B：200字ぐらいなら　まあ読めます。

This まあ is used to imply that the speaker is hesitant to say too conclusively that he can read. The speaker tries to aviod giving an impression that he is over-confident and tries to show his reserved attitude.

② A：高いでしょうね。

B：ええ，まあ。

This is a convenient answer which is handy when you want to be elusive, that is, when you neither want to give a straighforward, detailed answer, nor negate something flatly. This expression indicates that you generally admit to what was said, but do not want to go into the details.

普通は「まあ」は発話が継続中であることを示すので話者交代が起こらないが，(23) ②の場合は異なっており，その点に注目させている点が興味深い[11]。

また，初級教科書 “An Introduction to Modern Japanese” には次のようなモデル会話がある。

(24)　客　　：運転手さん，上野駅まで行きたいんだけど，10分ぐらいで行くだろうかね。

運転手：そうですね。道がこんでいなけりゃ10分で行きますが，こんでると20分ぐらいかかりますよ。

客　　：こまったな。20分以上かかると，特急に乗れなくなっちゃうんだよ。

運転手：まあ，いそいでみましょう。でも，保証はできませんよ。

早く目的地に着きたいという客に対して，運転手は「まあ，いそいでみましょう」と答えている。その後に「保証はできませんよ」という言葉を続けなくても，「まあ」が既にその意図を導いていると考えられる。このようなメッセージを正しく把握することなしにはスムーズなコミュニケーションは成立しない。次の例では「まあ」の後の言葉は述べられていない。

(25)　ジョンソン：いま日本語で手紙を書いているんですけど…

山下　　：そうですか。

ジョンソン：ちょっと見てもらえませんか。

山下　　：ううん，わるいけど，いまでかけるところなんで…。いそぐんですか。

ジョンソン：ええ，まあ…

山下　　：こまったな。

ジョンソンの依頼に対して山下は「できない」という言葉を使うことなく，相手に断りを伝えている。しかし，依頼を断ったものの，相手への思いやりから「いそぐんですか」と尋ねている。それに対して，ジョンソンは「ええ，まあ…」と応答している。ジョンソンが「ええ，とてもいそいでいるんですよ」と答えないのは，山下に対する心遣いからである。このように相手に心の負担をかけまいとする双方のかけひきの過程を見てとることができる。「今，手紙を書いているんだけど，見てくれない？」「今，出かけるところなんで無理だよ」というような簡潔な応答はよほど親しい間柄に限られるだろう。たとえ，親しい間柄でも双方の人間関係の維持や調整のためには，このような標識の使用が欠かせない。

中級以上の教科書の場合はモデル会話中に「まあ」の出現は見られるが，ほとんど重点が置かれていない。中級以上の教科書は語彙の数を増やすことや，読解能力をつけることに重点がおかれるために，会話指導があまり視点に入っていないように思われる。その中では「講義を聞く技術」では留学生が講義を聞き取りやすくなるためにフィラーをどう処理しつつ聞くべきかの指導に取り組んでいる点が興味深い。

初級段階の話者は学習した単語を思い出して，それらを組み合わせて文を組み立てようと努力するが，事実関係を伝えることだけで精一杯である。初級の後半から中級へと進んでいくにつれて，文を作ることが比較的スムーズにできるようになり，感情表現も交えつつ聞き手への働きかけにも力を注ぐことができるようになる。しかし，この段階の日本語学習者の発話を観察すると，一つの文は正しい日本語で作られており，更にその次の文も正しい日本語で話されているにもかかわらず，文と文のつなぎの部分が外国語のままになっている。単語の発話が正確であるのに，文から文へと移行する折りに発される音声が日本語になっていない。このような事例はよく観察されるが，その原因は日本語学習の重点が単語の発音や文法にあり，談話構成にかかわる部分が無視されがちなことを如実に物語っている。単語と文法を習って文を作ることを学習しても，それだけではスムーズに会話を続けていく技術にはつながらない。一つの句から別の句へ，或いは一つの文から別の文へと移行する際に如何なる方法が有効なのかを知ることが必要であり，両者の間（ま）をどのように埋めるかの方法を習得しなければならない。岡崎（2001）は話し言葉の語用論的側面を列挙しているが，そのうちの4点を次に抜粋する。

・発話は完成された文では構成されていない。代わりに，句や節で構成されている。

・文法によってではなく，隣り合って言われることによって命題間の関連性を示す。

・修正や繰り返しを多用する

・フィラー，ポーズ，イントネーションがある

言語運用能力の上達のために，いわゆる文法指導が役に立たないと断定するものではないが，それはごく限られた役割しか果たさない。それに加えて，句や節をつないでいくストラ

テジー，あいづちのうち方，間のとり方，間をうめる技術などの談話展開様式の習得にもっと重点を置くべきである。これらの対人機能をうまく使いこなすことによって複段落を用いた会話が可能になるだろう。段落を用いて書く技術を養成することは比較的容易であるが，段落や複段落の使用が可能となるような談話構成能力を養成することはなかなか容易ではない。

長友（2000）は文法化については自然習得より教室内習得が優位であるが，語用論的知識・能力については教室内習得より自然習得において優位であるとの仮説をたてて，実際の学習者のインタビューテープの分析によって実証している。次に筆者が実施した留学生に対するインタビューの一部を紹介したい。この学習者はアメリカの大学で2年余りの日本語コースを終えて来日し，日本の家庭でホームステイをしながら日本語と日本文化を学んでいる。10ケ月の滞在期間中に約15～20分のインタビューが計6回行われたが，滞在期間の前半に実施されたインタビューは次のようなものである。

(26)　Q：話すことが難しいですか。聞くことが難しいですか。
　　A：話すことが難しい。聞くことも難しい。一人一人に難しくない。でも食事の時にみんな話している時にわかりにくい。

教師からの問いかけに対して，普通体で答えているのは文末まで意識が回らないせいだろう。一つ一つの文が短く，しかも文と文の間にはつながりの言葉がなくて表現不足であると言わざるをえない。非母語話者の日本語に慣れていない人には通じにくい部分がある。ところが，後半になるとかなりの会話能力の伸びが観察されるようになる。

(27)　宿題をしたり漢字を覚えたりするのに忙しかった。それはまあいい勉強だと思ったけどすごい大変だった。毎日，こう考えた。どっちの方が大切かなあ。ホストファミリーと話している時間か，勉強の時間か……（略）

一つ一つの文は短いが，指示詞を使うなどしてうまくつないでいるし，「まあ」の使用も見られる。この発話に限らず本人が意識的に使っているとは思えないほど，自然にフィラーが挿入されており，それによって会話を続けていくことが極めてスムーズに行われる。話し手にとっても，聞き手にとっても自然で楽に会話が進行するようになる。この学習者は正規の授業でこのような談話標識の使用について何らかのインプットが得られたわけではない。それにもかかわらず，長い発話を可能にするためのストラテジーを身につけている。これはホームステイ経験を初めとする日本語使用環境の中に常に身を置いていることによって自然習得した部分が大きいと思われる。

理想的に言えば，教室授業による学習と同時に，第二言語が話される環境に浸かることによる自然習得が起こることが望ましい。教室活動の中で自己の体験や意見などを発表するためのスピーチ指導の時間を設けることも大切だが，事前に準備したスピーチの発表だけでなく，準備しない即興のスピーチをする機会を持つことも大切である。即興のスピーチや長い対話のやりとりの中で，考えながら会話を進行していくストラテジーが養われるだろう。特

に，断定回避のディスコースマーカーとしての用法を身につけるためには，聞き手とのインターアクションが顕著に見られるような場面でのロールプレイによって，その使用効果を実感させることから始めるのがよいと思われる。本稿では「まあ」に焦点をあてて考察したが，それにとどまらず談話構成上で重要な要素を分析し，複段落を用いた発話を可能とする言語運用能力を身につけるための指導へと結び付けていくことが今後の課題である。

注

1）「日本語会話データベース」より抜粋したものである。

2）本稿では「ま」「まぁ」「まっ」などをすべて含めて「まあ」で代表させることにする。

3）OPIの面接資料は「日本語会話データベースと談話分析」を参照にした。これは米国プリンストン大学と国際基督教大学で実施されたOPI（口頭能力測定試験）の資料であるが，非母語話者の資料と共に母語話者の資料を含んでいる点でユニークである。

4）新聞記事から約100，落語から約70，OPI面接から約100の用例を検討した。

5）非母語話者のスピーチに見られる特徴を観察するのは興味深いが，今回は対象外とする。

6）奈倉の調査では男性による講義では「まあ」が1位を占めるのに対して，女性による講義では2位を占めること，年齢によっても差が出ることを明らかにしている。野村では文科系講義か理科系講義かにかかわらず，「まあ」が3位を占めるとの調査結果がある。

7）但し，新聞で引用されている台詞は聞き手からのフィードバックの可能性がある。

8）2000年度朝日新聞の中に見いだされた355例のうちの約100例を詳細に検討した結果，広辞苑の解釈があてはまるものは約47％であることが判明した。

9）

レベル	談話の型	語用論的能力
超　級	複段落	相づち，間の取り方に問題なし
上　級	段　落	相づち，言い換えができる
中　級	文	相づち，言い換えに成功するのはまれ
初　級	語，句	語用論的能力はゼロ

以上はACTFL-OPIレベル判定基準よりの抜粋

10）OPI面接資料のうち母語話者によるもの7人分（各人約15分）の分析結果を挙げる。

「まあ」の単独使用　75％

「まあ」と他のフィラーの同時使用　25％

11）本稿では「まあ」の音声の長さを検討対象にしていないが，その長さが話者交代のサインとなるか否かを決める要素となる可能性がある。

参考文献

エメット啓子（2001）「『なんか』ー会話への積極的参加を促すインターアクショナルマーカー」『言語学と日本語教育Ⅱ』くろしお出版

岡崎眸・岡崎敏雄（2001）「日本語教育における学習の分析とデザイン」凡人社

定延利之・田窪行則（1995）「談話における心的操作モニター機構ー心的操作標識『ええと』『あの（ー）』」「言語研究」第108号

長友　和彦（2000）「日本語の自然習得とFocus on Form」（第11回第二言語習得研究会全国大会）

奈倉　俊江（1997）「日本語の言いよどみ表現について」『世界の日本語教育』第７巻
西阪　　仰（1999）「会話分析の練習ー相互行為の資源としての言いよどみ」『会話分析への招待』世界思想社
野村　雅昭（2000）「落語の話術」『落語の言語学シリーズ３』平凡社
野村美穂子（1996）「大学の講義における文化系の日本語と理科系の日本語ー『フィラー』に注目して」立教大学教育研究所紀要第５号
橋内　　武（1999）「ディスコース」くろしお出版
牧野成一ほか（2001）「ACTFL-OPI入門」アルク
森山　卓郎（1989）「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』第１号
山下　暁美（1990）「話し言葉におけるいわゆる無意味語」『講座日本語教育』第25分冊　早稲田大学日本語研究教育センター
Deborah Schiffrin（1987）“Discourse Marker” Cambridge University Press

用例出典

枝雀落語大全第三十三集『時うどん』『軒づけ』東芝EBI株式会社　2001年
五代目古今亭志ん生全集第八巻　弘文出版株式会社　1992年
米朝落語全集第四十集『蔵丁稚』『いもりの黒焼』東芝EBI株式会社　1993年
新村　出「広辞苑」第五版　岩波書店　1998年
「日本語会話データベースの構築と談話分析」〔文部省科学研究費補助重点特定領域研究『人文科学とコンピュータ』公募研究（研究代表者　上村隆一）研究成果1995-1998〕
Digital News Archives For Libraries　朝日新聞社　2000年

日本語教科書

海外技術者研修協会（1990）「新日本語の基礎Ⅰ＆Ⅱ」スリーエーネットワーク
〃　　（1998）「みんなの日本語初級Ⅰ＆Ⅱ」スリーエーネットワーク
産業能率短期大学日本語教育研究室（編）（1988）「講義を聞く技術」産業能率大学出版部
能登博義（1992）「コミュニケーションのための日本語入門」創拓社
Osamu Mizutani & Nobuko Mizutani（1977）“An Introduction to Modern Japanese” The Japan Times